



Vol.107
令和元年度5月号

伊豆沼から栗駒山を望む

— 外来魚防除活動を実施します



駆除活動、人工産卵床とオオクチバスの卵

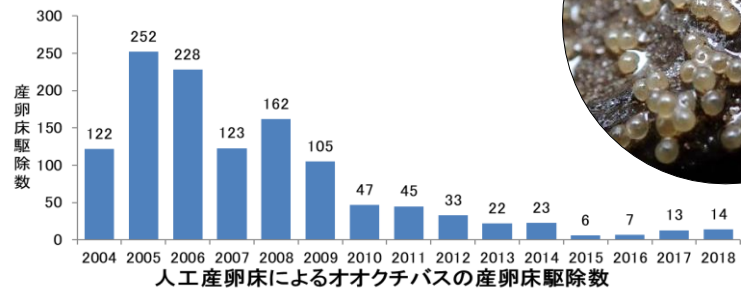


16年目を迎えるバス・バスターズ。今年度も実施いたします。お陰様で、沼のオオクチバスはかなり減少してきました。ただ、人工産卵床ではまだ十数箇所の産卵があり、繁殖力の強いオオクチバスが再び増える危険性がまだあります。皆さま方のご協力をお願いいたします。

- 第1回 5月19日(日) 第2回 5月26日(日)
- 第3回 6月 2日(日) 第4回 6月 9日(日)
- 第5回 6月16日(日) 第6回 6月23日(日)



9:00~12:00に人工産卵床の見まわりとバス稚魚を網ですくいます。



バスターズの継続的な駆除活動により、人工産卵床に産みつけられるバスの卵の数は大幅に減少しました。

電気ショッカーボート



沼でエビ、増加中

外来魚防除活動の結果でしょうか、伊豆沼・内沼でエビが増加しています。昨年10月の調査では、定置網一網で、3,204尾が獲れました。キログラム単位で獲れていて、今までで見たことのない数です。財団では昨秋の友の会のイベントで「かき揚げ」にして食べました。参加した方々に大変好評でした。ただし、このエビはチュウゴクスジエビ。名前の通り中国原産なので、在来種に影響がないか、財団ではモニタリングを続ける予定です。



チュウゴクスジエビ



友の会芋煮で伊豆沼で捕れたエビのかき揚げを提供 (2018.11.3) →

— 水生植物園の整備を行っています

春は生き物が冬眠から目覚め、活動を始める季節です。伊豆沼の北に位置する水生植物園においても、4月の中旬から下旬になれば、様々な生き物が活動を始めます。これらの生き物が動き出す前に、小川の堀上げなどの環境整備を行いました。水生植物園は、水田だった場所を整備し、かつて伊豆沼周辺の里に存在したであろう野池や小川を再現してあります。このような里の景観は、人々が自然に働きかけ、管理を行うことで維持されてきました。水生植物園内の小川も、放置しておくとなんども土が溜まり、埋まっていきます。そこで、小川の堀上作業を4月9日に行いました。3日間で延べ15人の人力により長さ300mの小川が蘇りました。今は土がむき出しの状態ですが、小川周辺ではスゲの仲間が芽吹き始めているので、間もなく新緑に覆われます。ぜひ見に来てください。



水生植物園全景・さまざまな水草の保全活動を行っています



水路の堀上げ作業



整備を行った水路。時を経れば緑に覆われる

新職員の紹介



研究補助
麻山 賢人

好きな動物はスズメです。
伊豆沼・内沼の環境保全と普及活動に努めてまいります。

伊豆沼・内沼生きもの図鑑 シマアジ *Anas querquedula*

美味しい魚を思い浮かべる名前ですが、カモの仲間です。コガモくらいの小型のカモで、オスには目の上に目立つ白色の横線があります。普通、カモは冬に渡ってきますが、このカモだけはシギ・チドリ類と同じように、春と秋に日本に一時的に立ち寄る旅鳥で、東南アジアで冬を過ごした後、日本を通過し、アジア中部で繁殖します。春、伊豆沼周辺では4月から5月上旬くらいまで見られます。写真のような綺麗なオスはこの時しかみられません。なぜなら、秋はエクリプス羽といって、オスも茶色のメスに似た色合いをしているからです。数も少なく、なかなかお目にかかれないうカモですが、とてもエレガントな鳥です。

